



ACGU Regional Management Research Institute
青森中央学院大学 地域マネジメント研究所

ASD診断支援研究の新展開 ——言語選択から認知機能領域の解明へ

1. 研究の到達点

本研究は、自閉スペクトラム症(ASD)の診断支援を目的として、日本語話者ASDの臨床言語コーパスを構築し、発話における語彙・文法資源の選択パターンに基づく識別特徴の抽出と診断支援AIモデルの開発を進めてきました。このAIモデル開発の成果は、2024年に弘前大学との共同プレスリリースとして発信されました。2025年度は、こうした言語特徴がどのような**神経認知機能**と関係しているかの分析を進め、その成果として、**認知神経科学分野の国際誌に論文2報が掲載**されました。これにより、本研究は、言語分析、自然言語処理、機械学習を基盤としつつ、さらに認知神経科学の視点を接続する段階へと進展しています。



2. 認知神経科学への展開

2025年8月および2026年1月に『Frontiers in Human Neuroscience』に掲載された2報の論文では、ASD者の言語選択に現れる識別特徴と認知機能との関連が分析されました。2025年8月掲載論文では、統計的に有意な識別特徴のうち20項目を7つの認知機能領域に位置づけました。さらに2026年1月掲載論文では、18項目の識別特徴を12の認知機能領域に対応づけ、言語と認知の関係をより精緻に示しました。これにより、補助動詞、節構成、評価表現などの言語的特徴が、ワーキングメモリ、共同注意、予測処理、実行機能、視点取得などの認知機能とどのように関係しているのかを、データに基づいて説明する段階に到達しています。

3. 国際的反響と評価

本研究成果は、国際的にも継続的な関心を集めています。2025年8月掲載論文は、掲載後約8か月で**2404回の閲覧と790件のダウンロード**を記録しました。さらに、2026年1月掲載論文も、公開後2か月半ほどで797回の閲覧と113件のダウンロードに達しています。今後有望な伸びが期待できます。専門性の高い研究として、比較的短期間のうちにこれだけの閲覧とダウンロードが生じていることは、本テーマに対する国際的関心の高さを示すものといえます。また、2025年8月掲載論文については、Frontiersからダウンロード数に関するmilestone達成の通知が届いており、掲載後も継続的に読まれ、利用されていることがうかがえます。加えて、加藤研究員は分野の国際誌での査読依頼は多いが、特に**世界的学術出版社SAGE Publicationsのjournalの査読者として同社のアカウントに正式に登録**され、査読依頼を受けています。こうした点も、加藤研究員の研究が国際的な学術コミュニティの中で着実に認知されていることを示しています。

4. 国際的展開

2025年7月には、北京の産官学の第一線の専門家からなるグループの要請を受け、本研究の技術的枠組みについて説明を行いました。これは、本研究の成果が国際誌での発信にとどまらず、海外の第一線の専門家との具体的な意見交換や連携可能性へと展開していることを示しています。

研究者紹介

加藤 澄 (KATO, Sumi)

▶専門領域

神経精神医学 (医学博士: 弘前大学大学院医学研究科)
言語学 (国際文化博士: 東北大学大学院国際文化研究科(旧)言語機能論講座)



▶研究テーマ

Systemic Functional Linguistics (選択体系機能言語学: SFL) / サイコセラピーにおける言語的相互作用 (臨床言語論) / ASD・統合失調症・鬱・他精神疾患の言語選択アルゴリズム開発

▶主な著書・訳書

『サイコセラピー臨床言語論』(単著, 明石書店, 2016); 『サイコセラピー面接テキスト分析』(単著, ひつじ書房, 2009); *Japanese Mood and Modality in Systemic Functional Linguistics* (共著, John Benjamins Publishing Co., 2021); 『臨床言語心理学の可能性』(共著, 晃洋書房, 2019); 『機能文法による日本語モダリティ研究』(共著, くろしお出版, 2016); 『家族にしのびよる非行・犯罪-その現実と心理援助』(分担執筆, 金子書房, 2010); 『グローバル化時代を生きる世代間交流』(単訳, 明石書店, 2008); 『サイコドラマ-集団精神療法とアクションメソッドの原点』(共訳, 白揚社, 2006); 他

令和7年度ビジネスセミナー「地域の歴史的資源からのバリューチェーンをさぐる」

2025年10月28日(火)、青森中央学院大学を会場に、令和7年度地域マネジメント研究所ビジネスセミナー「地域の歴史的資源からのバリューチェーンを探る」を開催しました。

株式会社テクノ・インテグレーション代表取締役社長の出川通氏を講師にお迎えし、島根、香川における豊富なイノベーション事例から、地域のスタートアップの創出についてご講演いただきました。高校生や大学生など約50名が聴講し、地域のイノベーションや活性化に結び付く地元の歴史資源の発掘・再発見の観点を学びました。



まちデザイン塾 まちをデザインする新たな学びの場



中村陽一研究員による「まちデザイン塾」(公益財団法人青森学術文化振興財団令和7年度助成事業)を、8月と11月に実施しました。

「どうすれば青森と関わり続けるライフデザインが描けるのか?」をベーシックな問いとして位置づけ、「まちをデザインするとは?」や「あらためてシビックプライドとは?」などの5つの問いをめぐって、青森県内の大学生・高校生が「青森のまちをデザインし、自身とまちの関わり方の未来を学びあう」体験をしました。

8月は、青森駅前をフィールドに、グループワーク、話題提供者による講義、フィールドワーク、プレゼンテーションなど3日間にわたって多様な専門家とともに、まちと地域課題を考えました。

11月は、21世紀の折り返し地点「21.5世紀」に向けて変容し続ける自分たちのまちや生活、社会のあり方を、講義とグループディスカッションを通じて、多角的な視点から考察しました。



あおもりクアオルト活動団体と「いわてクアオルト共創ネット」の情報交換会

2026年1月27日(火)、青森商工会議所1階AOMORI STARTUP CENTERで、青森県のクアオルト活動団体と「いわてクアオルト共創ネット」との情報交換会を開催しました。

本学および「クアウォーキングを支えようサークル」は、あおもりクアガイド協会、青森商工会議所とともに、あおもりクアオルト活動団体として参加しました。

岩手県では、北上市、滝沢市、一戸町、岩手町に、日本クアオルト研究所認定のクアオルト健康ウォーキングコースが設置され、産官学金が強力に連携して健康増進とまちづくりを推進しています。

「浅虫温泉海山クアの道」を活動拠点とする青森市がクアオルト健康ウォーキングを導入した背景、青森銀行(現・青森みちのく銀行)や本学と連携し、産学官協力による取組みを進めてきた経緯などについて、菊池美智子研究員とサークル学生が情報提供を行いました。

「いわてクアオルト共創ネット」から13名、あおもりクアオルト活動団体から10名が参加し、活発な意見交換が行われ、今後の協力・発展の可能性を見出す有意義な会となりました。



クアオルト健康ウォーキングとは

「がんばらなくても、倍近い運動効果が期待できる歩き方」を、専門家からレクチャーしてもらいながら楽しく歩く運動。ドイツのクアオルト(健康保養地)で行われている手法を基本としながら、日本の風土や文化、国民性に合わせた健康づくりプログラムの一環として、日本各地で取り組まれています。

クアオルト(Kurort):

ドイツ語で、Kur(治療・療養、保養のための滞在)とOrt(場所・地域)が合わさった、「療養地」を意味する言葉。

クアオルト健康ウォーキング 浅虫温泉海山クアの道

青森県唯一の認定コース「浅虫温泉海山クアの道」は、海と山が近接している浅虫地区の特色を生かした約4.2kmのコース。

問合せ先: あおもりクアガイド協会事務局 (浅虫温泉観光協会内)

『八甲田の山裾から—地域と共に未来へ—』出版

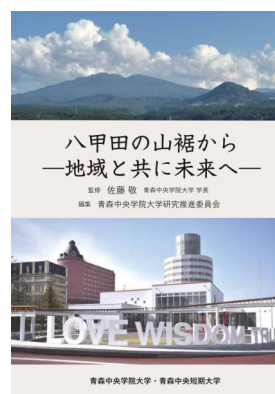
このたび本学は、書籍『八甲田の山裾から—地域と共に未来へ—』を出版しました。

本書は、あおり創生パートナーズ株式会社の会報誌『Region(れぢおん)』に2024年10月から2025年10月まで掲載された青森中央学院大学および青森中央短期大学の教員による連載企画を編み直しまとめたものです。本学教員の研究教育活動や、地域課題解決の方策となりうる研究教育シーズを、広く地域に発信することを目的として書籍化しました。ぜひ、お手に取ってご一読ください。

著者 青森中央学院大学・青森中央短期大学

監修 佐藤 敬(前 青森中央学院大学長) ; 編集 青森中央学院大学研究推進委員会

発行日 2026(令和8)年3月20日 ; 発行所 合同会社ものの芽舎



『青森中央学院大学地域マネジメント研究所 研究年報』第22号発行

ISSN 2433-1732

- ・技能実習経験を持つ留学生のキャリア形成—複線経路等至性アプローチ(TEA)による分析—
- ・自然会話における共同構築に関する中日対照研究—列举表現を中心に—
- ・地域在住中高年者を対象とした認知症予防の複合型プログラムの介入研究-第2報-
- ・他業銀行業高度化等会社の設立状況と銀行経営に対する影響の予備的分析
- ・大学生による関係人口受入支援態勢構築に関する実証研究 Ⅲ
- ・青森中央学院大学看護学部における「看護師の特定行為研修」制度の周知・普及の取組み
- ・まちをデザインする新たな学びの場の開催および環境整備に関する聞き取り調査

青森中央学院大学・青森中央短期大学学術機関リポジトリ <https://acguajc.repo.nii.ac.jp/>

青森中央学院大学地域マネジメント研究所は、平成16年4月に設立され、地域の経済・産業・経営・政治・行政・法律・社会・文化活動をはじめ、グローバルな諸問題についての調査研究活動を展開しています。地域社会に開かれた研究機関として、皆さま方と連携しながら新たな社会的価値を創造し、地域社会に貢献してまいります。

事業内容

- ①地域の諸問題やグローバルなテーマに関する調査研究と研究成果の公表
- ②他の研究機関等とのネットワーク構築と共同研究の実施
- ③時宜に適ったテーマによる公開講座やシンポジウム、セミナーの開催
- ④地域産業、社会を支援するコーディネート活動やアドバイス活動の展開
- ⑤官公庁・団体・企業等からの調査研究、計画策定研修・人材育成等の受託
- ⑥各種分野の講師派遣、幹旋
- ⑦刊行物の発行、ホームページによる情報発信
- ⑧その他「地域マネジメント研究所」の目的を達成するための事業

2026年度研究所スタッフ

- 所長 小松原 聡(戦略マネジメントコントロール)
- 研究員 加藤 澄(Systemic Functional Linguistics、コーパス言語学)
- 研究員 北原 かな子(日本近代史、比較文化論)
- 研究員 竹内 紀人(地域経済論)
- 研究員 中村 陽一(社会デザイン/ソーシャルビジネス)
- 研究員 廣瀬 孝壽(民法、消費者法)
- 研究員 菊池 美智子(公衆衛生看護学)
- 研究員 阿部 光(建築計画、医療施設計画)

受託研究・奨学寄附金の受け入れ

青森中央学院大学では、産官学連携の一環として、受託研究、奨学寄附金の受け入れをしています。詳しくは、本学ホームページをご覧ください。



青森中央学院大学 地域マネジメント研究所
ACGU Regional Management Research Institute

〒030-0132 青森市大字横内字神田12番地
青森中央学院大学

TEL: 017(728)0131(代) FAX: 017(738)8333

Email: research@aomoricgu.ac.jp

学校法人青森田中学園

青森中央学院大学 経営法学部・看護学部

青森中央学院大学大学院 地域マネジメント研究所

青森中央短期大学 食物栄養学科・幼児保育学科

青森中央経理専門学校

青森中央文化専門学校